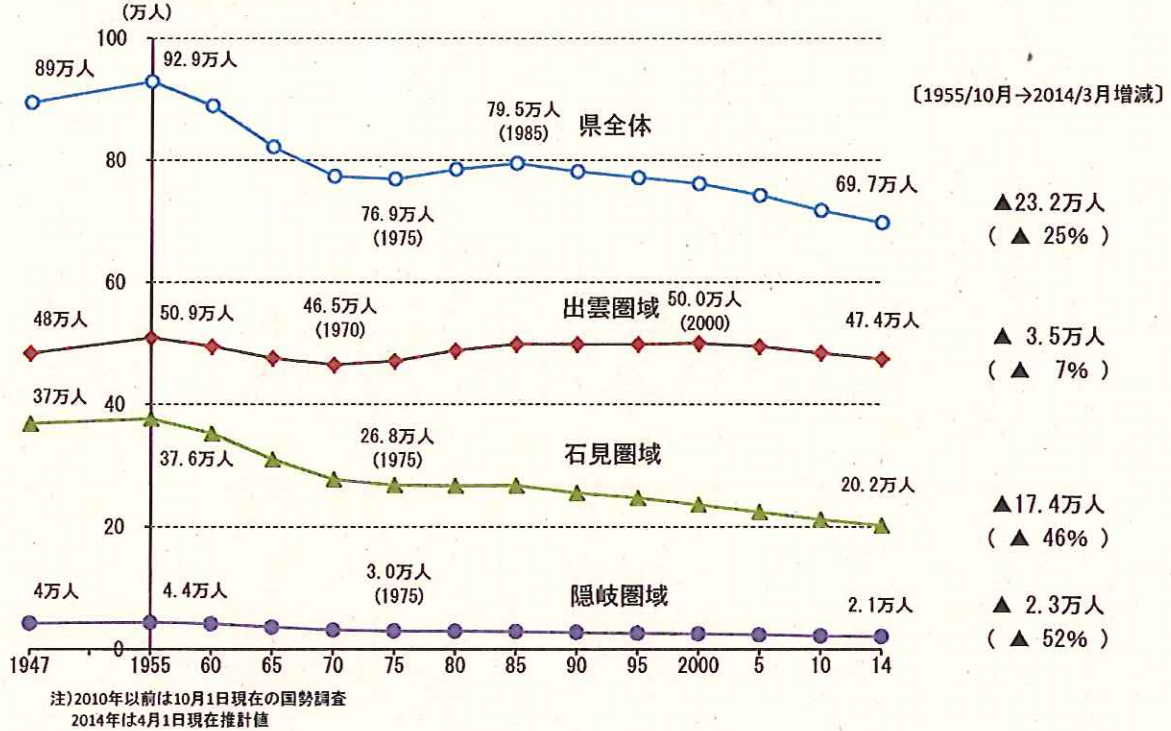


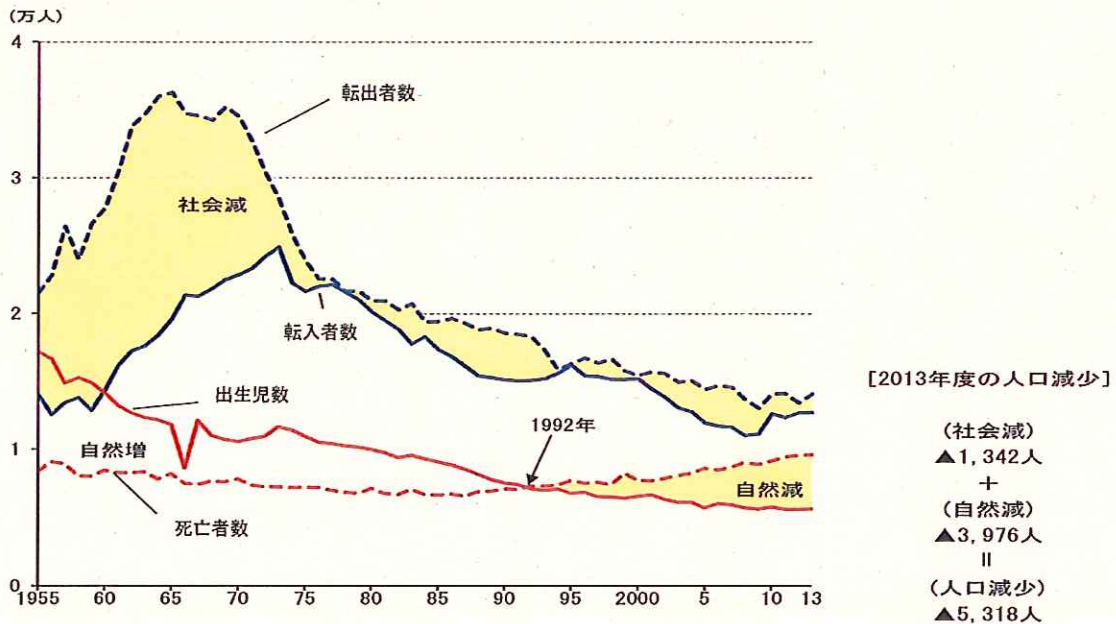
① 島根県の人口の推移

島根県の人口は、S30年(1955年)の92万9千人をピークとして減少傾向となり、H26年4月の推計人口は、70万人を下回りました。特に石見圏域、隠岐圏域での人口減が大きくなっています。



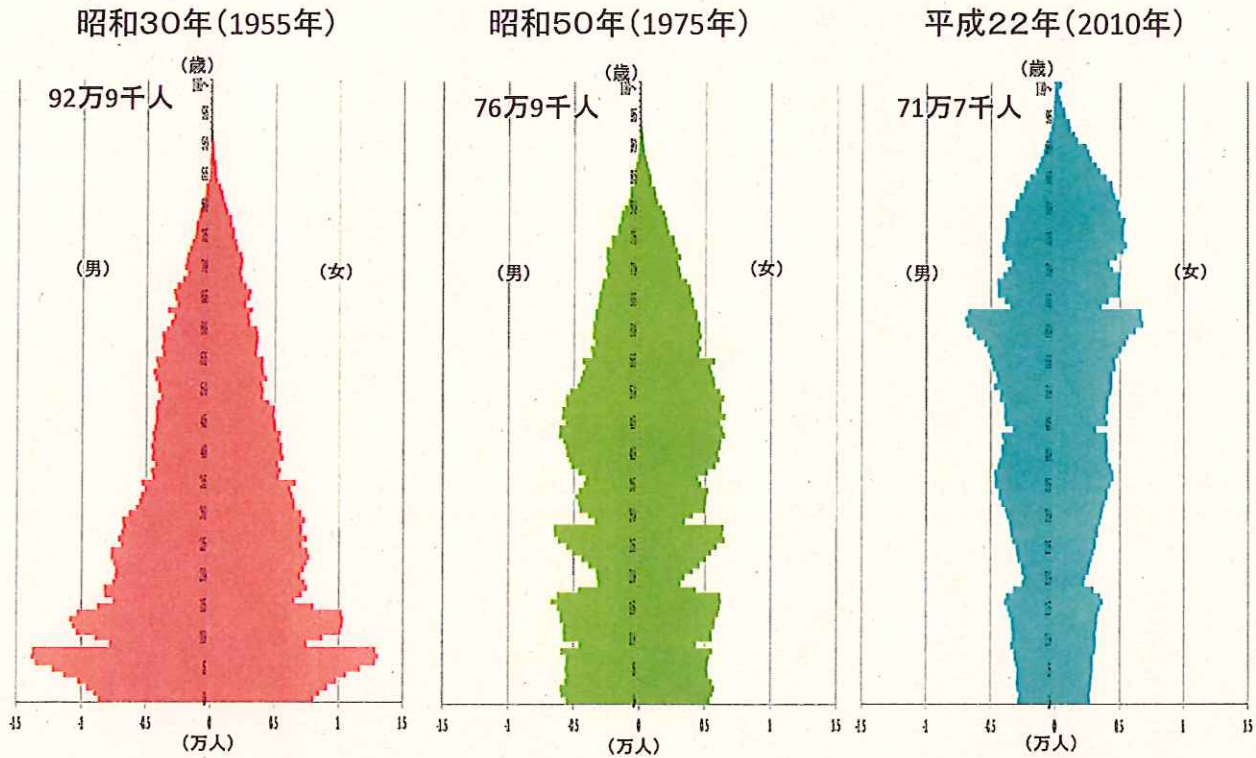
② 人口増減の要素

人口が増減していくのには、2つの要素があります。出生児数と死亡者数の差引である「自然増減」と、転入者数と転出者数の差引である「社会増減」です。島根県の人口は、近年では毎年約5千人減少しており、「自然減」4千人に加えて、「社会減」が1千人あります。



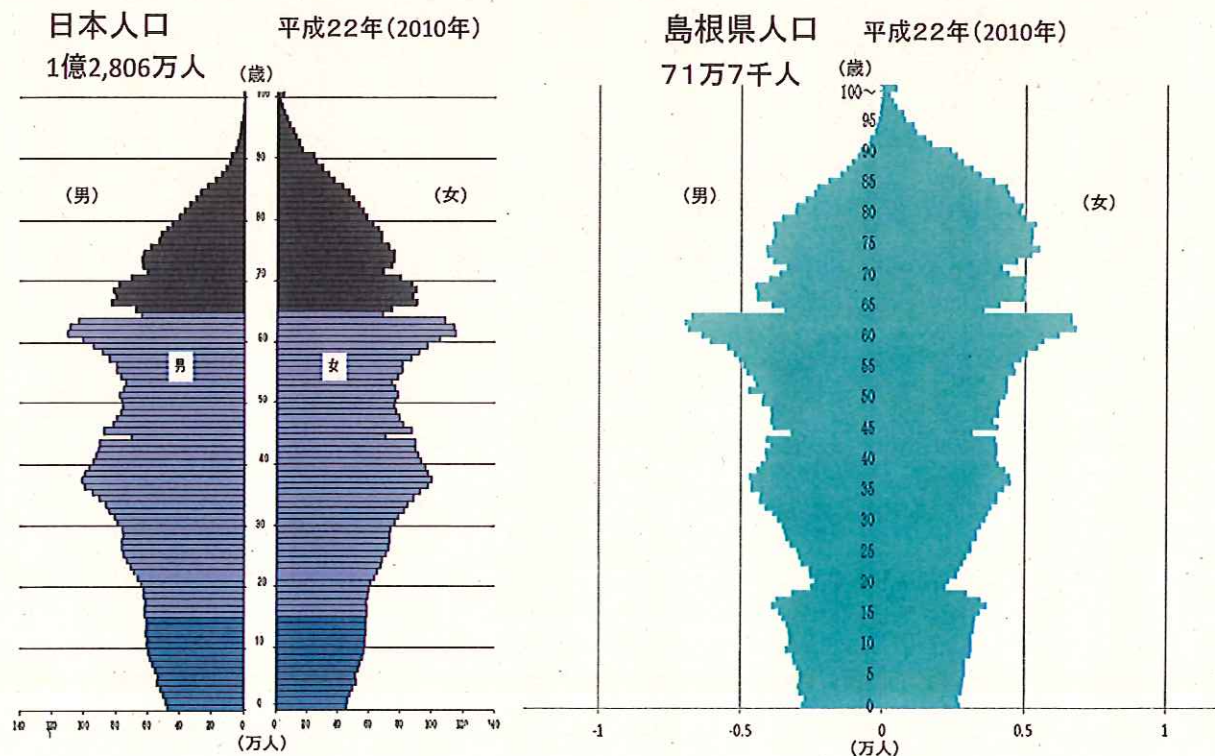
③島根県の人口ピラミッド

島根県の人口の年齢構成は、かつてのピラミッド型から、現在では少子高齢化となっています。



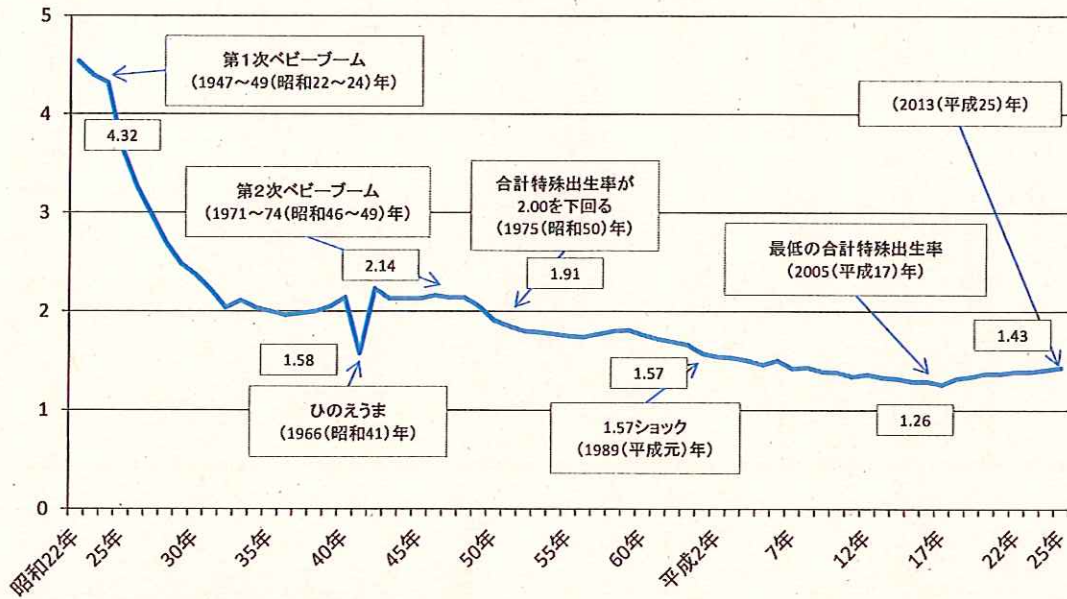
④全国と島根県の年齢構成の比較(H22年)

現在の島根県の年齢構成が全国と違う点は、80歳前後の女性が多いことと、20歳前後の男女が少ないことです。



⑤日本の出生率の推移

現在の子どもの数も減少しており、子どもを産む年代の人を今すぐに増やすことはできないことから、生まれてくる子どもの数を増やすためには、1人の女性が産む子どもの数、すなわち出生率を日本全体で上げていく必要があります。

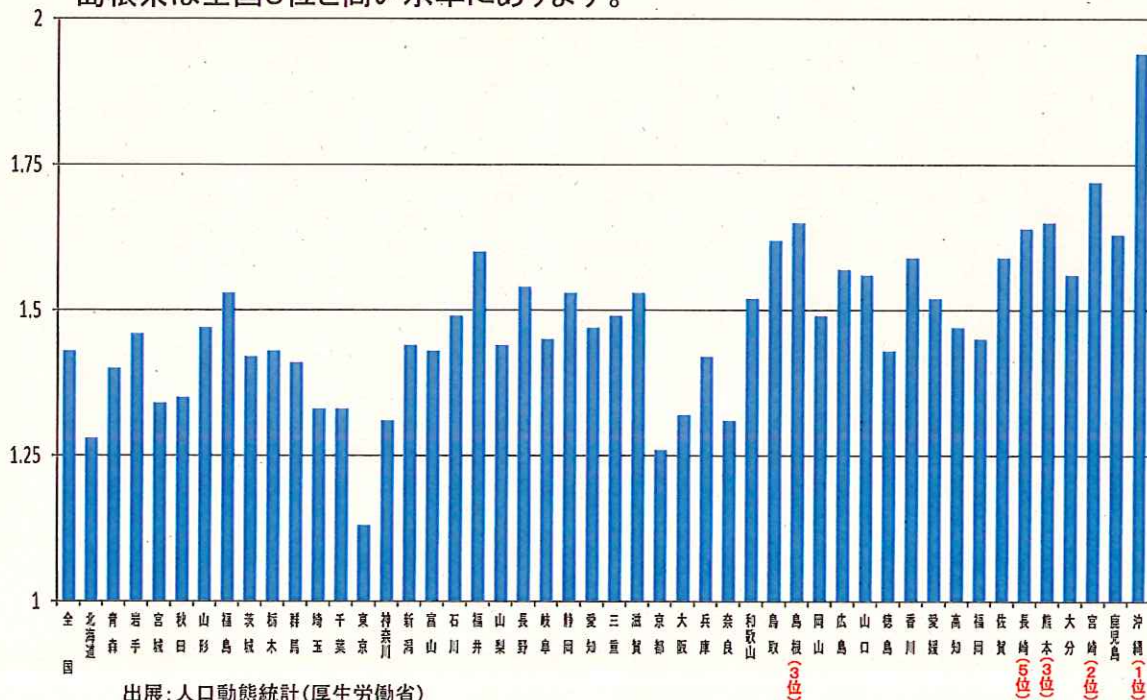


注:昭和47年以前の数値には沖縄県は含まれない。
出典:人口動態統計(厚生労働省)

⑥全国の出生率の比較(H25)

出生率は全国均一ではなく、都道府県別にみると大きな差があり、総じて西日本が高くなっています。

島根県は全国3位と高い水準にあります。

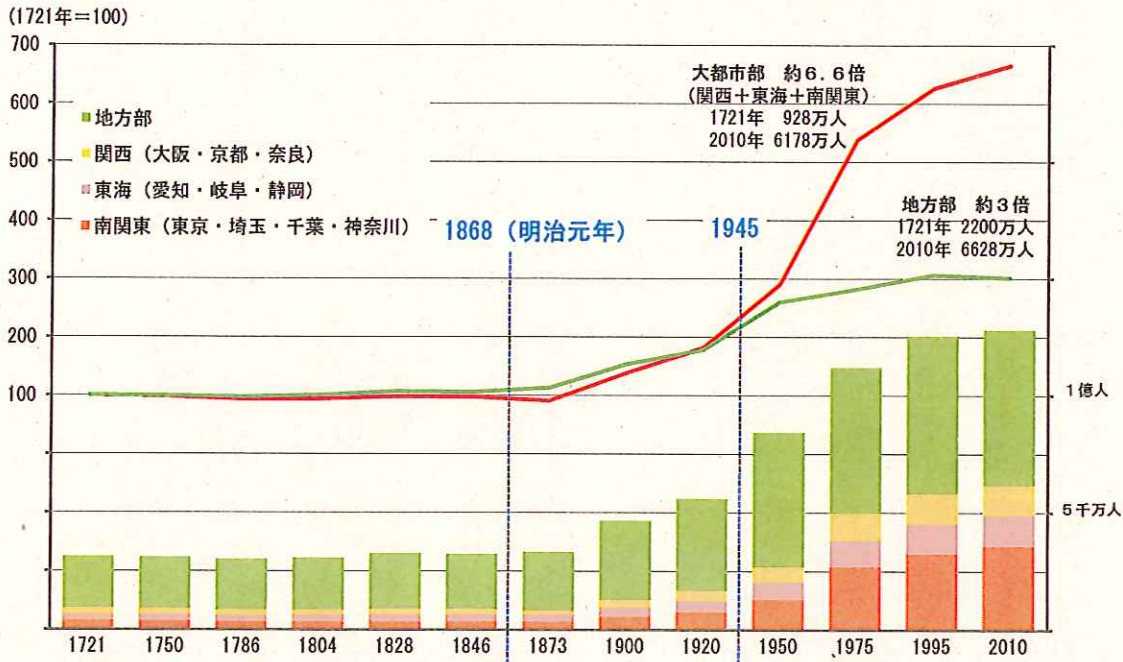


出展:人口動態統計(厚生労働省)

⑦日本の大都市部と地方部の人口の推移

戦後、日本全体の人口が増加する中で、大都市部の人口増の割合が地方部に比べて大きくなっています。

日本の人口の大都市部への集中は、戦後に起こった新しい現象なのです。



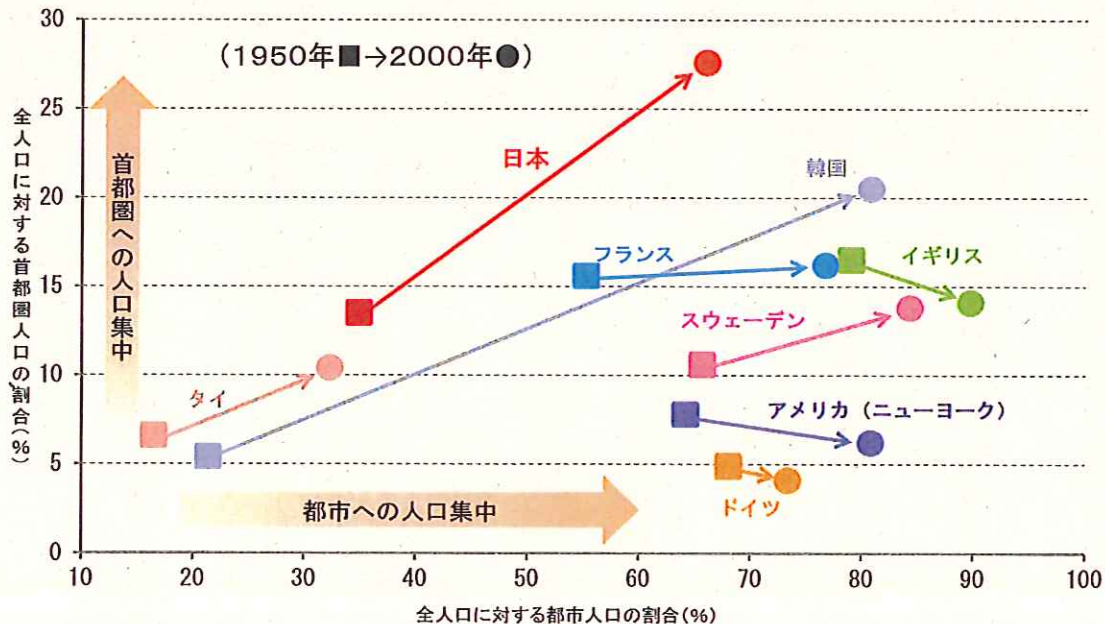
出典：鬼頭宏(2007)「図説 人口で見る日本史 縄文時代から近未来社会まで」

⑧主要国の都市化の動き

欧米でも都市部に人口が集中してきていますが、首都圏への人口集中は横ばい又は低下しており、日本など遅れて発展した国では、都市への人口集中は、首都圏への人口集中となっています。

日本では、戦後、工業用水が豊富で、埋立てのできる遠浅の海がある三大都市圏を中心に重化学工業を育成しました。

それを支える労働力を確保するため、まちづくりが行われ、増えた人口の日常生活を支えるために新しい産業が生まれ、その労働力を確保するためにまた人が集められるということが繰り返され、企業の国際的な展開も活発となって首都圏への一極集中が進みました。



資料：国際連合「World Urbanization Prospects : The 2007 Revision Population Database」